

はじめに

基本計画：1章

(1) 計画の背景と位置づけ

安中市では、「選ばれる安中市」に躍進するために多様な施策を展開しており、その一つとして、横川駅周辺を計画予定地とした、『観光や防災に寄与する市内初の「道の駅」』の実現に向けて取り組んでおります。

令和6年3月に策定した『安中市「道の駅」基本構想』（以下「基本構想」）において、道の駅整備の目的や効果、及び想定されるターゲットや導入機能などの方向性を示すとともに、「安中市道の駅整備検討委員会（以下「検討委員会」）」で検討・協議を重ね、関係する団体及び事業者、市民の皆様などからの意見を取り入れながら道の駅の整備のあり方について議論を進めてきました。

本計画は、道の駅の整備に向けて、基本理念、導入機能及び規模などの計画条件を整理のうえ、地域特性を活かし、競争力のある特徴的な道の駅とするための整備内容を示すものです。

(2) 計画予定地の位置、区域

計画予定地は、JR信越本線の終点である横川駅の近傍にあり、国道18号沿道に位置し、軽井沢方面と高崎方面を結ぶ位置にあたります。計画予定地は急峻な碓氷峠を控えた位置にあることから、降雨や積雪、土砂災害等による国道18号の通行止めに備えた防災拠点としての役割が期待されます。



▲計画予定地の位置

計画条件の整理

基本計画：2章

(1) 上位関連計画における位置づけ

第3次安中市総合計画（令和6年3月）：計画予定地は、「広域観光交流ゾーン」として地域の資源や歴史・文化などを適切に保全しつつ、広域観光を促進するための環境や機能を整えるゾーンに位置し、交通結節機能を有し生活サービス機能が集積するなど、地域生活を支える「地域生活拠点」に位置づけられています。

(2) 想定利用者のニーズ調査結果

本計画の検討にあたり、基本構想で示されたターゲットのニーズを把握するために以下の調査を実施し、その結果を計画に反映しました。各調査の結果から見える観光客・地域住民のニーズは以下のとおりです。

<p>観光客によるニーズ [来訪者インタビュー調査結果]</p> <ul style="list-style-type: none"> 休憩施設・物産販売機能といった、一般的な道の駅に備わる機能以外に、<u>ペットと憩える場所、子どもの遊び場所</u>に関するニーズが見られた 鉄道文化むらだけに留まらず、<u>周辺施設・エリアへの周遊もできる</u>ことが求められている 	<p>地域住民によるニーズ [地域住民アンケート調査結果]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「物産販売機能」が圧倒的に多く、次いで「<u>日常の買い物機能</u>」「<u>休憩機能</u>」と、日常的な利用が見込める機能が求めている声が多い 参画可能な活動は「<u>日常的な維持管理活動</u>」が最も多い エリアへのアクセス性向上・交通状況改善のためには、<u>適切な周辺道路整備・駐車場の確保</u>が必要
---	--

(3) 民間事業者ヒアリング結果概要

道の駅の整備や運営管理のあり方について、事業者の参画意向や展開できそうなアイデア・知見などについてヒアリングを行い、公民連携による道の駅の運営管理の実現に向け、事業化におけるメリットや課題を把握しました。

民間事業者が見込むポテンシャル [民間事業者ヒアリング調査結果]

- 鉄道などの歴史遺構における、先端技術を活用した観光コンテンツの提供
- 地域の多様な交流・憩いの場の創出
- 公共交通のハブ空間
- 日常的に施設を利用し空間を共有することにより、有事の際に防災拠点として活用できる
- 鉄道文化むらとの一体化は、このエリアのネームバリューを活かした道の駅整備に資する

(4) 法規制などの条件

計画予定地及び鉄道文化むらの一部では、土砂災害警戒区域（土石流）に指定されています。よって、災害リスクの回避のため、当該区域内には建築物を新設しないこととします。

道の駅整備の配慮事項と基本的な考え方

基本計画：3章

道の駅整備の配慮事項、および本計画における「空間形成コンセプト」を以下のように設定します。

道の駅整備の配慮事項

- 鉄道駅と鉄道文化むらが隣接する計画予定地は、鉄道の歴史を身近に感じられる場所であり、全国的にも珍しい唯一無二のポテンシャルとして活かします。
- 計画予定地だけで完結するのではなく、周辺の多様な観光資源・エリアとも連携した、広域的な観光拠点として整備します。
- かねてより災害の多い碓氷峠周辺における、有事の際の防災拠点として整備します。
- 観光促進だけでなく、平常時も災害時もフェーズフリーな地域の活動拠点として地区住民も利用しやすい施設として整備します。

空間形成コンセプト

悠久の時を紡ぐ碓氷峠鉄道文化むらと一体となり
地域にも開かれたまちの拠点へ

以下に、上記のコンセプトを実現するための「重点整備方針」と、ゾーニングの考え方を示します。

<p>重点整備方針① 道の駅と碓氷峠鉄道文化むらの一体感の創出</p>	<ul style="list-style-type: none"> この地の圧倒的なポテンシャルである<u>鉄道文化むらと一体感のある空間の創出</u>により、<u>道の駅・鉄道文化むらの利用者が双方に行き交う流れ</u>を創ります。 鉄道文化むらの現状のゲート前は、道の駅と繋がるゲート空間として設え、<u>新たな「エントランス」</u>として創出します。
<p>重点整備方針② 地域に寄り添う道の駅としての空間構成の配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> <u>横川駅の眼前にあり、かつ地域の交通拠点に近い場所</u>に、地域連携機能・情報発信機能を集積させ、<u>東側の駐車場・鉄道文化むらの双方から集える空間構成</u>とします。 <u>周辺の観光資源との連携が図れる拠点</u>を目指す空間とします。
<p>重点整備方針③ 来訪者・運転者が円滑に来訪できる空間の創出</p>	<ul style="list-style-type: none"> 計画予定地東側のまとまった空間が確保できる箇所に、<u>24時間無料利用</u>できる駐車場とトイレなどの休憩施設を配置します。 自家用車や大型車両の入出庫がスムーズに行けるとともに、<u>来訪者やドライバーの安全な往来が可能となるよう、歩行者の東西の通行空間を確保</u>します。

ゾーニングの考え方



